

## 8月にSGH大学訪問を実施しました。

### SGH発展学習（国内大学・国際関係機関との連携）

～共生社会、日本の国際貢献・国際理解を考える～

平成30年8月28日（火）東京外国語大学、日本アセアンセンター

#### 《目的》

大学で講義を受け、現地フィールドワークを行うことで、課題研究テーマへの興味・関心を喚起し、課題研究テーマの適切な設定や理解を深める。

#### 《内容》

東京外国語大学を訪問し、大学院総合国際学研究院講師の内藤稔氏から、「**多文化化する日本社会におけるコミュニティ通訳の役割**」についての講義をしていただきました。質疑応答の場面では、多くの質問が出て、活発な意見交換がなされました。日本アセアンセンターでは、**インドネシア美術文化交流展**を見学した後、ASEAN諸国の紹介や、センターの活動についてのお話や**ラオス政府からの出向職員とのトークセッション**を行いました。



内藤氏の講義



インドネシア美術交流展の見学



日本アセアンセンターでの講話

#### [参加生徒の感想]

今まで知らなかった「コミュニティ通訳」という、もっとも身近でこれから重要な役割を担っていく通訳について知ることが出来ました。コミュニティ通訳は、とても便利で役に立つものですが、稀少言語になると通訳者も少なくなるので、全てのニーズに応えるには難しいと思いました。

コミュニティ通訳とその他の通訳の違いを知ることが出来ました。ただ人が話したことをそのまま訳せば良いわけではないので、苦勞もすることがあると感じました。母国語でさえ人の感情を表すことも難しいので、より感情に合った言葉を探して訳さなくてはいけないのかと感じました。

東南アジアの国々はどちらかというと経済的に発展していない印象を持っていましたが、日本アセアンセンターで話を聴き、大きな国は豊富な資源や農産物、小さな国でも貿易の中継地や金融業で豊かになっていると知り、それぞれの地域の特性を活かして豊かになっていることに驚きました。

今回の研修を通して、改めて言語の大切さを学ぶことが出来ました。今後必要とされるのはただ知識がある人ではなく、相手の文化や価値観を理解した上でコミュニケーションがとれる人であると感じたので、そのような人を目指して言語の勉強に励んでいきたいと思います。